

議事録テーマ別分類（日本語）マトリックス

日	時間	P.	訪問機関	章	分類	節	内容
9.1	15:30	14.3	夕国大蔵省	1	援助	1 3 1	日本 日本との協力は全体的にはよいが、一つの問題は将来的な配分が不確定な点である。開発方針は、変化しており、日本に要請を提出した場合、他ドナーには提出しないので、機会喪失することになる。
9.1	15:30	15.3	夕国大蔵省	1	援助	1 3 2	技術協力 専門家が契約を終えた後も技術は移転されていない。
9.7	15:00	42.6	UNFPA	1	援助	1 3 3	JICAの将来 JICAは、セクター・アプローチと分権に関して挑戦がある。古い援助方式は既に存在せず、統合・協調された共同支援へと向かっている。例えば、我々は、共同プログラム・共同評価の方向に向かっている。我々は、JICAが既にコミットメント等と思うが、政府の優先プログラム分野に根ざさなければならない。
9.1	9:00	7.4	UNDP	1	援助	1 3 4	日本 UNDPはPRSPをモニターする Tanzania Socioeconomic Databaseを支援しているが、日本も興味あるかもしれない。また、農業の選択は農村道路と一致する。
9.1	14:30	12.5	USAID	1	援助	1 3 5	日本 農業は重要な分野であり、アメリカも1980年代には力を入れていた。日本が力を入れていることはいいことである。
9.1	11:00	10.1	世界銀行	1	援助	1 3 6	日本 日本は、Hydropower、農業、農村道路、保健（エイズ、マラリア）などを支援するのが望ましいと提案した。農業の中では、1)米などの穀物生産、2)農村金融、3)農産物加工など考えられる。
9.8	10:00	47.2	FAO	1	援助	1 3 7	JICA JICAは、比較優位をつかって、農業分野では、灌漑・漁業・ポスト収穫・農産物加工・農業・農機で力を発揮すべきである。灌漑は、インプットとしての水の重要性を強化する。収穫後の40%が失われる為、ポスト収穫は重要である。多くの人は、日本で漁業の研修を受けている。日本は、天然資源は強くないかもしれない。
9.6	10:00	28.2	ユニセフ（保	1	援助	1 3 8	JICA JICAとは、キロサ県とバガモヨ県で協力がある。Safe Motherhoodプログラムで、JICAがラジオを提供し、ユニセフが救急車と訓練を提供している。NORADが支援していた県に継続的に支援してもらえず、残念だ。
9.7	15:00	42.3	UNFPA	1	援助	1 3 9	JICA 家族計画の分野で、既にJICA/UNFPA/保健省/NGOで協力している。日本は、UNFPAの最大ドナーであり、我々は、日本と更に協力を強化することは、喜ばしい。日本に家族計画に関して強いNGOがいるのは、促進材料である。ただし、異なった地域で活動を行っているのは、阻害材料かもしれない。
9.7	16:00	43.5	WHO	1	援助	1 3 10	JICA 既に、JICAとは、EPIで協力している。他の可能性としては、HIV/AIDS、IMCI（児童病理統合的管理）及びマラリアである。マラリアは、もう既に協力しているかもしれない。
9.7	16:00	44.4	WHO	1	援助	1 3 11	JICAの将来 JICAと更にSWAp及び県での保健セクター改革と一緒に仕事をしていきたいと思う。我々は、基金ではなく技術的な機関なので、むしろ政府のために協力していきたい。県での保健サービスは最大の問題だと思う。
9.7	10:30	39.9	USAID（保健	1	援助	1 3 12	JICA 我々の援助の半分は、保健、特に基礎保健、HIV/AIDSである。こういった分野でJICAと協力できるかもしれない。
9.4	15:30	23.2	夕国建設省	1	援助	1 3 13	傾向 1991-1999ダレスサラームにおける協力
9.8	10:00	47.3	FAO	1	援助	1 3 13	地域的分散 日本は、北東での支援に集中しているが、見直した方が良いかもしれない。キリマンジャロ州などは、良い受入体制があると思うが、もっとも金持ちの州である。
9.2	書面	101	UNDP	1	援助	1 3 14	JICA IT関連、貧困モニタリング、労働集約的の地方道路、社会インフラ、農業
9.6	書面	105	UNDP	1	援助	1 3 14	将来 JICAは、将来の協力において、PRSP内の優先分野で協力することが望ましい。
9.1	15:30	14.2	夕国大蔵省	1	タ	2 1 1	状況 マクロ経済の状態は改善している。
9.1	9:00	5.1	UNDP	1	タ	2 1 1	状況 マクロ経済や改革は正しい政策変化を行った。
9.1	11:00	9.1	世界銀行	1	タ	2 1 1	状況 タンザニアのGDP成長は4.7%へと伸びたが、2.8%の人口増加率なので充分ではなく、7%を目指している（Vision 2025参照）。インフレは6%で、4%を目指している。ドナーの支援後の財政は0であり、政府支出も改善の必要がある。農業が主な生産分野であるが、効果を見るまで時間がかかる。貿易赤字も多く、日本、ロシア、オランダ、スウェーデン等に債務がある。タンザニアの生産経済を活性化させる必要がある。財政の3分の1は債務であり、そのため、HIPCが行われている。
9.4	13:30	25.6	オランダ大使	1	援助	2 1 1	政府 近年援助による支配はより少ない。また、我々がMDF等支援していた為、債務も減少している。
9.4	15:30	23.5	夕国建設省	1	援助	2 1 2	Performance measurement 公務員改革の一環として、保健省が始めており、しだいに他の省庁もPerformance measurementを行う予定である。建設省はまだであり、我々は、州技術者との年次合意で活動を行っている。
9.5	10:30	27.1	大蔵省	1	援助	2 1 2	Performance measurement Performanceによる管理は、今年始まった。貧困撲滅に貢献するセクター目的をモニターできるように、省庁間で協力している。

議事録テーマ別分類（日本語）マトリックス

日	時間	P.	訪問機関	章	分類	節	内容
9.4	14:00	21.6	タ国保健省	1	評価	2 1 2	Performance measurement それぞれの部署が、優先活動目的があり、それに基づき計画と予算をつける。また、目的達成度を財政に比較して測るために performance indicators を使っている。Health Sector Reform Programme of Work, July 1999 - June 2002 に詳細を記載している。
9.7	10:30	40.1	USAID (保健)	1	援助	2 1 2	施行 保健省への支援もあるが、それが最も施行率が低い。施行率が低いと、政治的理由でより優先すべき国が例えば現れたとすると、その配分がまわされてしまう可能性がある。
9.4	13:30	25.8	オランダ大使	1	援助	2 1 2	政府 政府の Ownership の増加は見られるが、保健省や教育省での能力は充分ではない。(優秀な人材が少なすぎる。)
9.7	7:30	36.1	ユニセフ (M)	1	援助	2 1 2	データ ドナーは統計局の Household Budget Survey (HBS) を支援している。ここでのドナー協調をみても面白いかもしれない。Alana Albee に詳しい話を聞けばよい。統計局は、executive agency となり、収入をえるはずなので、ビジネスの専門家をかかえるべきである。スウェーデンの統計専門家及び Gram Eel が統計局に技術協力を行っているにもかかわらず、HBS の予算が、US\$1,000,000 から倍額に跳ね上がったのは、驚いた。
9.1	9:00	5.2	UNDP	1	タ	2 1 2	能力 高等教育を受けた人口が少なく、あらゆる活動を同時進行する能力に欠ける。
9.1	15:30	15.2	タ国大蔵省	1	タ	2 1 2	能力 ターゲットへ到達しない原因は管理能力不足である。技術協力は長期的な能力開発に貢献していないだけでなく、コストが高すぎる。
9.7	9:45	38.1	統計局	1	援助	2 1 2	背景 PRSP でのモニタリングの再認識によって、統計局が期待されている。需要が増える中、能力を高めていく必要がある。能力向上のための予算を大蔵省が始めてつけてくれた。新しい財政・会計・行政関連の優秀な人材も雇用する過程にある。また、ソフトとハードも改善している。また、通常の公務員よりも給料を高くする予定である。逆に、訓練しても使えない人（掃除の人、統計関連でない人）は減らし、240人から130人になっている。
9.1	14:30	13	USAID	1	援助	2 1 3	HIV/AIDS 道路は重要であるが、HIV/AIDS を広める。現在タンザニア人の20%はHIV/AIDS をもっている。最新の調査によると、そのため乳児死亡率が増加しているらしい。我々は、NGO をつかってHIV/AIDS のプロジェクトを行い、保健省とは、伝統的な分野のみ支援している。
9.6	10:00	28.5	ユニセフ (保)	1	タ	2 1 3	保健 タンザニアでは、乳幼児死亡率及び妊産婦死亡率が増加傾向にある。これは、HIV/AIDS のみならず、保健サービスの悪化、マラリアの悪化、及び実質経済状態の低下 (GDP は増加しているようだが) に原因がある。
9.7	9:45	38.3	統計局	1	援助	2 1 4	ILFS 労働力調査は、ILO とデンマークによって支援されている。2001年の4月には終わるはずで、資金も充分ある。
9.7	9:45	38.4	統計局	1	援助	2 1 4	国勢調査 国勢調査は、2002年までに行うが、PRSP のモニタリングに寄与するはずである。
9.7	7:30	36.2	ユニセフ (M)	1	援助	2 1 4	データ Tanzania Socio-Economic Database は、TAN Info と名前が変わった。
9.6	13:00	32.5	UNDP	1	援助	2 2 1	PRSP 二国間ドナーは、PRSP の過程に最初はイライラしていた (参加できなかったため)。
9.1	9:00	6.6	UNDP	1	援助	2 2 1	PRSP 政府主導。ただし、プロセスで、ドナーがコメントをした。タンザニアでは、PRSP は、タンザニアの開発計画の一部であり、政府支出の30% である。他の含まれない分野は、国立道路、電気、防衛などである。HIPC は、年 US\$200,000,000 であり、他のドナーから US\$100,000,000 位増えるかもしれない。
9.1	14:30	12.4	USAID	1	援助	2 2 1	PRSP PRSP は多少透明性のあるプロセスであったが、世銀の息が強すぎる。政府の矛盾は、分権を薦めているわりには、中央集権的な意思決定を行うことである。
9.1	15:30	14.1	タ国大蔵省	1	援助	2 2 1	PRSP PRSP は政府主導のものである。
9.6	11:00	30.1	Dfid	1	援助	2 2 1	タンザニア タンザニアは長期的な視点にたった Vision 2025 があり、TAS ではドナーの支援のあり方について述べている。ある程度オーナーシップもある。最近 PRSP の方が注目を集めている。国の必要を充足するためには、タンザニア政府の収入は充分ではなく、経済成長が必要である。
9.7	15:00	42.4	UNFPA	1	援助	2 2 2	PRSP 国連は、PRSP には、inter-agency technical committee を通して関わっていた。UNFPA はもともと、TAS の人口成長の状況分析に関わっていた。もともと国連は、国連システムの CCA に取り掛かっていたが、CCA を政府所有のものとするために、CCA を TAS に取り込ませた。TAS の一部分である PRSP に近年は、短期的な金銭的な確約があるため、政府は注目しているが。
9.7	16:00	44.1	WHO	1	援助	2 2 2	PRSP 我々は、UNDAF, TAS, SWAp 及び PER に関わってくることによって、政府の保健分野での優先が明らかになってきている。PRSP の一部分として、保健に関するモニタリングも含まれている。

議事録テーマ別分類（日本語）マトリックス

日	時間	P.	訪問機関	章	分類	節	内容
9.4	10:30	19.7	タ国教育省	1	援助	2	2 PRSP National Poverty Eradication Strategyは長期的な貧困撲滅の目的をもっており、PRSPは、3年後という中期的な最貧困層の削減といった目的を持っている。PRSPの優先分野は教育、保健、水、地域道路、及び農業である。その教育のなかでの戦略的な分野がスクールマッピングということである。
9.6	13:00	32.7	UNDP	1	援助	2	2 PRSP PRSPについては、年次協議が行われる。
9.3	書面	102	UNDP	1	援助	2	2 PRSP TAS, PRSPは、UNDAFの基礎となるCCAを代替する。
9.6	13:00	32.6	UNDP	1	援助	2	2 TAS TASは、ドナーと政府間の協力について述べてあり、行動に即し優先順位のあるPRSPを包括する。
9.6	13:00	32.8	UNDP	1	援助	2	2 TAS 次のDAC会議（2000年10月12日）に、TASについて議論されるかもしれない。しかし、選挙が終わるまで大蔵省は動かないだろう。
9.7	15:00	41.6	UNFPA	1	援助	2	2 合理化 我々は、TAS、PRSP、UNDAFにかかわっており、現1996-2001年CPの後、SWApの中に我々の活動が組み込まれる。
9.1	11:00	9.2	世界銀行	1	援助	2	2 政府 政府は、貧困削減に政策を移行している。HIPCは、今月末国会に承認された後、Annual Meetingに提出される。PRSPの注目すべき点は参加的なプロセスであったことである。NGOs, private sectors、州、各ドナーと協議を行った。
9.1	15:30	14.5	タ国大蔵省	1	援助	2	3 PRSP 農業、保健、教育、インフラ(農村道路)、良い統治がPRSPの重点分野である。
9.6	15:00	33.6	ILO	1	援助	2	3 PRSP PRSPでは、児童労働について述べているのでとりあえず満足しているが、過程はトップ・ダウンであった。
9.8	10:00	47.1	FAO	1	援助	2	3 TAS TASは、環境とジェンダーに関して盲点がある。農業は良く取り扱っている。
9.4	13:30	25.5	オランダ大使	1	援助	2	3 政府 タンザニア政府は、保健と教育へのシフトがある。
9.1	9:00	6.5	UNDP	1	援助	2	4 PRSP PRSPで面白い点は、モニタリングについて明記している点である。第一に、政府支出の変化のモニタリングがある。第二に、教育、健康などの定期的なモニタリングがある。第三に、補充する形で、貧困アセスメントを小規模で行うことである。UNDPは、全面的にこれらのモニタリングを支援したいと思っている。
9.7	9:45	38.5	統計局	1	援助	2	4 PRSP PRSPをモニタリングする調査として、世銀の'QUICK'とその代替案との対立がある。結論を出すために、12月にコンサルタントを雇い状況を判断するが、JICAはこの支援をする興味があるかもしれない。REPOA, Ken Williams, Valerie Leachにも相談しようと思っている。
9.1	11:00	10.2	世界銀行	1	援助	2	5 PRSP 債務救済の資金の流れ：現在のHIPCは一步進んだHIPCであり、改善されている。タンザニアは、毎年払わなければいけない債務を払わなくても良い、ということである。よって、税金を他の用途に使える。
9.1	11:00	10.3	世界銀行	1	援助	2	5 PRSP PRSPの後の財政に変化：タンザニアの財政サイクルは7月に始まる為、今年度の財政で、各重点分野で2%増が見られる。
9.1	15:30	15.9	タ国大蔵省	1	援助	2	5 PRSP HIPCは多国債債務で、2国債債務は別でしょう。
9.4	14:00	22.2	タ国保健省	1	援助	2	5 PRSP PRSPの導入及びHIPC救済により、財政の上限が増えた。
9.4	14:00	22.3	タ国保健省	1	援助	2	5 PRSP 1990年には7%だったのが、去年12%となり、今年は14%である。
9.4	15:30	23.4	タ国建設省	1	援助	2	5 PRSP 現在、幹線道路と州道路の10,000キロを、我々がカバーしている。現在、道路基金の70%がそれらに配分され、30%がMinistry of Regional Administration and Local Governmentがカバーしている県道路へ行く。道路基金の配分については、今現在議論中である。道路基金は、ガソリン税からまかなっている。道路基金によって、道路開発、維持を行っている。
9.7	7:30	35.1	ユニセフ (M)	1	援助	2	3 1 TAS UNDAFとしてTASに関わってきた。TASを議論したCG会議でUNとして述べたように、援助の方向性は、財政支援及びバスケット・ファンドを通じたプログラム援助であるべきである。地方分権も強調すべきである。援助はタンザニア政府にとって重荷でありすぎるため、援助を合理化すべきである。
9.4	10:30	18.6	タ国教育省	1	援助	2	3 地方分権 県が実施者。県の優先によって、県へ予算がつけられる。
9.4	10:30	20.1	タ国教育省	1	援助	2	3 2 ドナー ドナーには、我々の優先的な活動を支援してほしい。それぞれに費用も計算している。要するに、プログラムの過程を支援していただければ嬉しい。
9.4	10:30	20.2	タ国教育省	1	援助	2	3 2 ドナー ドナー支援は、必要としているよりも量的に少ない。例えば、スクールマッピング等全ての県で行いたいが、費用が足りない為に、行えない。
9.7	7:30	35.3	ユニセフ (M)	1	援助	2	3 1 背景 DACはより有効な開発のために、Developing the 21st Centuryを元に、共通の会計・財政・調達システムによって合理化を進めている。保健分野では調達のためにバスケットがある。これは、政府の負担を少なくし、地元能力向上や持続性のために、政府のシステムと関連して行うべきである。

議事録テーマ別分類（日本語）マトリックス

日	時間	P.	訪問機関	章	分類	節	内容
9.1	9:00	5.3	UNDP	1	援助	2 3 6	形態 援助の方式には、色々な方法があり、一つではない。長期的には財政支援が望ましいが、タンザニア政府の能力を考慮に入れると、遠い将来の視点である。タンザニア政府の能力が向上するまでの移行期間は、色々な援助の方式が考えられる。UNDPは基金ではなくカタリスト組織なので、財政支援・バスケットファンドに完全に移行することは無い。現在UNDPは、実験的にバスケットファンドの可能性を探っており、保健と良い統治のバスケットファンドの調査を行っており、次のDAC会議でそれについて議論する。
9.4	14:00	22.4	タ国保健省	1	援助	2 4 1	協調 Sector Wide Approach (SWAp) を促進し、新しいプロジェクトを避けている。新しいプロジェクトは、我々の優先計画内である必要があり、また、保健省の承認が必要である。プロジェクトは、SWAp範囲内である必要がある。古いプロジェクトは2001年～2002年の間に終了する。
9.6	11:00	30.7	Dfid	1	援助	2 4 1	プロ 我々は、1997年には100以上のプロジェクトがあったが、現在（特に今年になって）減少している。
9.7	7:30	35.4	ユニセフ (M)	1	援助	2 4 1	プロ プロジェクトからプログラムへの動きがある。これらの背景として、Developing the 21st Century, ODIの文書、Assessing Aid (David Dollar)などがあげられる。
9.4	9:00	16.7	EU	1	援助	2 4 1	プロ (道路) 世銀のRoad Integrated Programは、直接は関わっていないが、プロジェクトからプログラムへの移行が急激すぎたからである。道路維持は、政治家にとって魅力的ではなかった。
9.1	11:00	9.3	世界銀行	1	援助	2 4 2	プロ 30%の支援が財政支援であり、政府が財政を把握する為には少なすぎる。ドナーが各地域などで効果をみたいのは理解できるが、なるべく財政支援、プログラムを行うべきである。（ただし、プロジェクトが政府の優先分野・計画内であったら同じである、と同意。）
9.1	11:00	9.4	世界銀行	1	援助	2 4 2	プロ プロジェクトは特定の地域・特定の活動の支援（例：カゲラ州でのオランダ、ムトワラ州でのフィンランド、キリマンジャロ州での日本等）、であり、プログラムは総合的な支援である。
9.7	7:30	35.5	ユニセフ (M)	1	援助	2 4 2	プロ ドナーは、政府の政策・プログラム内で支援を行うべきである。それ以外のプロジェクトへの支援はお金の無駄である。開発機関は、政府の政策とプログラムが機能していることを確認すべきである。もし政策やプログラムが正しくなければ、影響すべきである。例えば、今ダルエスサラームに美しい道があるが、5年後はどうなるか？
9.8	9:00	45.6	フィンランド	1	援助	2 4 2	プロ プロジェクト支援は、限られた効果があると思う。プロジェクトが釘ならば、プログラムはのこぎりだと思う。
9.4	書面	103	UNDP	1	援助	2 4 2	プロ プログラム方式は、包括的な視点に立ち、プロジェクト方式は、狭い視野での支援である。プログラムは、長期的には国に利益をもたらすが、効果が見えにくい。逆に、プロジェクトは結果が見やすい。
9.1	9:00	7.2	UNDP	1	援助	2 4 3	プロ 政府は、政策はあるが、プログラムがない。よって、ドナーが政府にプログラムを押し付ける形になっている。プロジェクトに関しては、同じ内容のプロジェクトが多くのドナーが行っている場合、統合すべきだと思う。
9.7	16:00	44.2	WHO	1	援助	2 4 4	プロ プロジェクトからプログラムへのシフトは、特にSWApを通して、当然である。WHOでは、これまでの成功プロジェクトを例としてとりあげ、プログラムにとりいれようとする。大きなプロジェクトは、プログラムへの移行が可能である。ドナープロジェクトは、政府を混乱させるので、WHOのプログラム=保健省のプログラムである。
9.4	13:30	25.7	オランダ大使	1	援助	2 4 5	SWAp SWApは、プロジェクト援助も動かすので、役に立つ。
9.6	13:00	32.2	UNDP	1	援助	2 4 5	SWAp SWApは、保健、教育、地方政府及び道路について議論が進んでいる。
9.8	9:00	45.3	フィンランド	1	援助	2 4 5	SWAp 効率を良くする為にも、他のドナーと政府と協力している。ただし、効果は見えにくくなる。この努力によって、政府の負担を減らし、共通の手続きをもちたい。政府は、基金の所有者としての指導的立場がある。
9.4	14:00	22.6	タ国保健省	1	援助	2 4 5	プロ プロジェクト方式は、SWAp範囲内であっても、プロジェクトのコストが分からないのが問題である。
9.4	13:30	26.6	オランダ大使	1	援助	2 4 5	プロ 多国籍支援へは把握しにくい。SWApは、プロジェクトの集まりみたいだが、政府の政策内である。
9.4	13:30	26.7	オランダ大使	1	援助	2 4 5	プロ 我々は政府の政策内のSWApが望ましいと思う。ドナーは、政府のプロジェクトをドナープロジェクトとして支援するのは、止めるべきである。良い例でない限り、お金をあげるほうが良い。
9.1	11:00	9.6	世界銀行	1	援助	2 4	プロ 特定なプロジェクトとしてはRailways, Financial reforms, Telecom, Power, Private sector development, Agriculture, Roads, Mineral, Urban sector rehabilitation, National extension, Lake Victoria environment, Girls education, Agricultural research, Tax administration, Rural and micro-finance, Privatization, Songo Songo gas, DAWASA (Dar es Salaam Water), TASAF (US\$60,000,000)
9.6	13:00	32.1	UNDP	1	援助	2 5 0	バスケット SWApとバスケットに関する調査は来週、遅くて今月末出てくる。

議事録テーマ別分類（日本語）マトリックス

日	時間	P.	訪問機関	章	分類	節	内容	
9.6	13:00	32.3	UNDP	1	援助	2 5 0	バスケット	バスケットは、保健と地方政府について進行しており、教育については進行状況が遅い。
9.1	14:30	12.3	USAID	1	援助	2 5 2	バスケット	我々は、バスケットファンドも財政支援もしない。アメリカの法律が許さないだけでなく、タンザニア政府の財政が不透明だからである。イギリス、北欧、オランダはこの点に固執し過ぎており、ドナー協調に悪い影響を及ぼしている。
9.7	10:30	40.3	USAID (保健)	1	援助	2 5 2	バスケット・SWAp	セクタープログラムでは、バスケットがセクタープログラムと同一視されていることが問題である。バスケットは、ドナー協調の実験的な一方法にすぎない。しかし、本部を背景に、政治的な争いになっている。このことによって、かえって他のドナーに対して批判的になってきている。また、バスケット・ファンドの定義もあいまいである。しかし、少しその興奮はさめてきている。
8.31	16:00	4.2	カナダ	1	援助	2 5 2	バスケット	バスケットファンドについては、本部からも前向きな返答があったため、用心しながら、かかわっている。ただし、バスケットファンドに参加できない日本やUSAID等を協議から除外するといったドナーの方法には賛同しかねる。
9.4	14:00	21.2	タ国保健省	1	援助	2 5 2	バスケット	日本へ、バスケットへの参加を促しているが、絶対必要というわけではない。最も重要なことは、活動計画の合意である。
9.4	14:00	22.5	タ国保健省	1	援助	2 5 2	バスケット	バスケット以外での形態も理解するが、バスケットに入ってもらった方が助かる。
9.6	12:00	31.7	ノルウェー大	1	援助	2 5 2	バスケット	バスケットで援助することが無理ならば、プロジェクトが優先分野であるのみならず、それぞれのセクターの優先計画内でなければいけない。
9.7	15:00	41.7	UNFPA	1	援助	2 5 2	バスケット	バスケット・ファンドは、政府がより、所有権及び決定権をもつ機会を促す。しかし、国際機関にとっては、すべての予算をバスケットに入れるのは、存在価値を考えた場合でも危険である。我々は、UNICEF, UNDPとともに、実験的に少量の資金をバスケットに入れている。在タンザニアドナーは、入れるように薦めるが、本部を通してまだドナーの声を聞いていない。
9.4	14:00	21.3	タ国保健省	1	援助	2 5 2	バスケット	保健省を支援している12ドナーのうち、6ドナーがバスケットに参加している。
9.4	14:00	21.4	タ国保健省	1	援助	2 5 2	バスケット	バスケットは、条件付きで、共通の会計マニュアルを作る予定である。二国間づつ合意するよりも、ドナー同志で合意してもらえば手間が省ける。ただ、バスケットによって、全てのドナーを満足させなければいけないために、手続きは増えた。ブラチナムの使用により、前年度から透明な財政になった。
9.6	11:00	30.5	Dfid	1	援助	2 5 2	バスケット	保健セクターへの支援は、すべてバスケットへ。
9.6	12:00	31.8	ノルウェー大	1	援助	2 5 2	バスケット	保健及び地方政府への支援はすべてバスケットへの支援である。
9.4	9:00	16.9	EU	1	援助	2 5 3	バスケット	教育の共通のプログラムに合意した。バスケットであるかどうかは、二次的な問題である。我々の指針となるロメ協定では、バスケットを推奨しているが、実際の本部は、見える結果を望んでいる。
9.4	9:00	16.91	EU	1	援助	2 5 3	バスケット	バスケットファンドの前提となるのが、政府への信頼であるが、教育省でみうけられる兆候は好ましいものではない。しかし、皆、過程で改善していこうと努力している。
9.4	10:30	20.4	タ国教育省	1	援助	2 5 3	バスケット	日本は、プール財政を行っていないが、プール以外の形態もある。
9.7	8:30	37.6	デンマーク大	1	援助	2 5 3	バスケット	保健の20%は保健セクター改革のバスケットへ行き、80%は県へ行く。
9.4	10:30	20.3	タ国教育省	1	援助	2 5 3	バスケット	ドナーは、それぞれ異なっているが、同じだと我々も助かる。セクター政策に関して言うと、ドナーは合意したが、財政的な共通の手続きに関しては合意していない。プール財政といった概念はあるが、実行は難しい。また、プール財政といった形態以外の支援があることも理解している。そういったドナーの方針は本部からくるものであり、なかなか変わらないのは仕方がない。
9.4	10:30	20.5	タ国教育省	1	援助	2 5 3	バスケット	あまりに、多くのドナーへの手続きがあると、我々が計画する時間が無い。
9.4	10:30	20.7	タ国教育省	1	援助	2 5 3	バスケット	オランダ、デンマーク、フィンランドが（県で）共通の手続き（会計、報告、モニタリング）を行っている。
9.8	9:00	45.5	フィンランド	1	援助	2 5 3	バスケット	我々は、LGRと県基礎教育支援のバスケットに参加している。県レベルは、国レベルよりも早い。国レベルの教育のバスケットはまだない。我々のバスケット参加の効果は強く、EUや世銀もバスケットに参加した。
9.6	11:00	30.9	Dfid	1	援助	2 5 4	バスケット	現在、レビュー中であるが、バスケット・ファンドは我々の時間を使いすぎていると思っている。よって、財政支援へ進行すると思われる。現在そのConcept notesを作成中であり今年12月までに作成し、来年の3月までに本部の承認を得、我々の来年の7月の予算には反映されると思う。この過程を経て、バスケットへの参加はやめるかもしれない。
9.4	10:30	20.6	タ国教育省	1	援助	2 5	バスケット	二国間援助は早い、多国間援助は遅い。

議事録テーマ別分類（日本語）マトリックス

日	時間	P.	訪問機関	章	分類	節	内容	
9.7	9:45	38.2	統計局	1	援助	2 5	HBS	UNDP、デンマーク、オランダ、イギリス、スウェーデン、カナダ、及び世銀がHBSを支援している。合意はそれぞれの国と行っているが、用途はHBS内ということ意外 earmark されていない。バスケットの定義がいまいちわからないので、これがバスケットかどうかはわからない。タンザニア銀行がさらに支援するはずで、JICA、スイス、アイルランドの支援も期待している。スケジュールはPRSPによって規定されているが、2001年4月に情報収集は終わり、11月までには、推定値がでるはずである。ドナーのコンタクトは、DfidのAlana Albeeである。
9.6	13:00	32.4	UNDP	1	援助	2 5	財政支援	Dfidは財政支援を行っており、8ヶ国（Dfid、オランダ、デンマーク、スイス、ノルウェー、アイルランド含む）がMDFを支援している。
9.6	11:00	30.4	Dfid	1	援助	2 5	財政支援・技術協力	現在40,000,000_を財政支援し、25,000,000_を技術協力（財政をとっているもの、通っていないものがある）している。
9.6	11:00	30.6	Dfid	1	援助	2 5	財政支援	財政支援のうちいくらかは、PRSPに earmark されている。他は earmark されていない。我々は、領収書をとるわけではないので、何に使われているか分からない。軍事に使われていても分からないかもしれない。
9.4	9:00	17.1	EU	1	援助	2 5	財政支援・技術協力	財政支援は71,200,000ユーロ、技術協力は1,500,000ユーロである。
9.4	9:00	16.92	EU	1	援助	2 5	財政支援	我々は、domestic debt retirement schemeで財政支援を行ったが、我々は財政行政に満足できなかったため、外から監査を入れた。監査は、タ国大蔵省に報告するが、EUも情報を得る。財政支援は、48,000,000ユーロであり、監査はその2%であった。このことによって、政府が動いた。裁判になった8つの事例がある。その他、制度を強化する方法も取った（5つの財政管理局を形成した）。能力のある人を、そうでない人も置き換えていった。
9.4	9:00	17.2	EU	1	援助	2 5	財政支援	財政支援へ移行することによって、技術協力の形態の変化は、監査の増加以外、外国人専門家の増加などの変化はない。
9.4	13:30	25.3	オランダ大使	1	援助	2 5	財政支援	シフト2：我々は、輸入代替プログラムを行っていたが、やめた。多国間債務基金（MDF）を行っていたが、これは、HIP Cへ移行している。
9.7	8:30	37.8	デンマーク大	1	援助	2 5	MDF	我々は、マクロ経済を安定し、社会セクターのレベルを維持・向上するために、MDFを支援している。
9.7	8:30	37.5	デンマーク大	1	援助	2 5	目的	我々の目的は、バスケットファンド及び財政支援を通して改革をすることである。このことによって、社会サービスの改善、しいては貧困削減に貢献すると信じている。
9.6	12:00	31.5	ノルウェー大	1	援助	2 5	財政支援	支援の100%が財政を通過している。大蔵省へ（US\$350,000-360,000及びMDFにUS\$65,000,000）及び他省庁の財政を支援している。
9.6	12:00	31.94	ノルウェー大	1	援助	2 5	財政支援	財政支援を通して、政策影響の機会が増えている。年4回ある進捗報告で、経済・税収集・政策施行及び優先分野が議論される。こういった情報を、同大使館の保健・教育の担当者と照らし合わせ、事実確認できる。さらに、全体的な財政支出を把握し、PERにおいて優先順位が明らかになっているかどうかなど確認できる。
9.8	9:00	45.4	フィンランド	1	援助	2 5	財政支援	我々は、能力強化の必要があるため、直接的な財政支援はしていない。財政支援には注意が必要である。アカウンタビリティに関しても、もう少し経験が必要である。
9.4	14:00	21.5	タ国保健省	1	援助	2 5	財政	我々は、政府財政、プール財政、財政外の支援を把握している。財政外の支援は、ドナーからその金額を教えてもらう。
9.4	15:30	23.6	タ国建設省	1	援助	2 5		開発プロジェクトに関しては、ドナーの支援が財政に組みこまれ、協力が計算される。
9.1	15:30	15.4	タ国大蔵省	1	援助	2 6	技術協力	能力の問題ではなく、専門家は自分の契約を更新したいがため、技術移転には興味が無いことである。
9.1	15:30	15.5	タ国大蔵省	1	援助	2 6	技術協力	専門家は、何も残さず帰って行く。ある国の援助の46%は国に戻り、54%をタンザニアと専門家とわけている。タンザニアが技術移転のための債務を払わなければいけないのは不公平である。[?]
9.1	15:30	15.6	タ国大蔵省	1	援助	2 6	技術協力	現在の技術移転に透明性はなく、改善の余地がある。
9.1	15:30	15.7	タ国大蔵省	1	援助	2 6	技術協力	海外での訓練と現地での訓練組み合わせが良い。
9.1	15:30	15.8	タ国大蔵省	1	援助	2 6	技術協力	タンザニアにも専門家はいるのに、雇う金が無いがためにドナーの専門家をうけいれていることが多い。

議事録テーマ別分類（日本語）マトリックス

日	時間	P.	訪問機関	章	分類	節	内容	
9.4	13:30	25.4	オランダ大使	1	援助	2 6 2	技術協力 シフト3：技術支援が減少している。1980年には200人いたが、1990年代になって、ザンジバルに20人、本土に70人の専門家、50人の医者、40人のボランティアが居た。現在は、専門家が16-17人であり（全支援の10%）、全支援の3分の1が技術支援である。他の3分の2が政府が単独あるいは共同でコントロールしている財政への支援である。	
9.7	10:30	39.3	USAID（保健）	1	援助	2 6 3	技術協力 外国人を使うか、タンザニア人を使うかといった論点がある。我々は、なるべくタンザニア人を使うが、場合による。現在の政府の限られた能力では、政府とは戦略や政策のみ一緒に仕事をする。他の分野では、NGOと仕事をする。	
9.4	14:00	21.1	タ国保健省	1	援助	2 6 4	専門家 JICAとの関係は、専門家が来てから改善している。	
9.4	15:30	23.1	タ国建設省	1	援助	2 6 4	専門家 建設省でのJICA専門家の存在によって、JICAとの協力が容易である。（20年間代代続いている。）	
9.6	10:00	28.3	ユニセフ（保）	1	援助	2 6 4	専門家 JICA保健専門家が、ユニセフとの協力を促進させている。	
9.8	9:00	46.1	フィンランド	1	援助	2 6 5	技術協力 技術協力は、もともとフィンランド人を通してであったが、今は国際競争を通して。フィンランドのコンサルタントは不満であった。我々は、教師の教育、及びムトラワ州のチーム・アドバイザーとして専門家はいる。	
9.6	12:00	31.4	ノルウェー大使	1	援助	2 6 5	タイド 制度形成を支援するが、ノルウェー人を通してとは限らない。	
9.4	13:30	26.5	オランダ大使	1	援助	2 6 5	NGO・タイド ただし、NGOの支援はオランダのNGOとは限らない（例えば、PSI）。カナダ、デンマーク、日本やアメリカと異なり、商業ベースであるため、税金も免除されていない。我々は、これが腐敗を防ぐと思う。	
9.6	12:00	31.6	ノルウェー大使	1	援助	2 7 1	NGO NGOは、US\$500,000支援している。	
9.7	10:30	39.4	USAID（保健）	1	援助	2 7 1	NGO 地元のNGOを使うのは、注意が必要だ。我々は、アメリカの私的企業が地元のNGOを総監督するといった形で地元のNGOと仕事をしている。アメリカの企業には、アカウントビリティと能力開発のノウハウがある。コストは高いが、その代償として、アカウントビリティがある。	
9.8	9:00	46.2	フィンランド	1	援助	2 7 1	NGO 我々は、政府への支援以外に、NGOも支援する。1999年の推定値では、44,933,469 FIMが政府をとおり、13,310,400 FIM（22%）NGO支援にまわった。NGO支援のうち、25%がタンザニアのNGO、75%がフィンランドのNGOへの支援が行われた。	
9.7	15:00	42.5	UNFPA	1	援助	2 7 1	草の根 JICAが草の根に関心をもつことは、いいことだ。制約は、草の根の能力、及び、地域的な分配かもしれない。	Q7
9.7	16:00	44.3	WHO	1	援助	2 7 1	草の根 草の根プログラムは、必要だと思う。特に保健セクターでは、草の根のレベルが欠けている。我々は、1997年からダルエスサラームで、「健康な町」プロジェクトをパイロットしていているが、コミュニティに届いていると思う。	Q7
9.5	書面	104	UNDP	1	援助	2 7 1	草の根 草の根支援は、長期的開発を促進する政策フレームワーク内で行うべきである。	Q7
9.4	13:30	25.91	オランダ大使	1	援助	2 7 2	県 我々の支援の25%は、カゲラ州、シニヤンガ州の県へ行く。参加型農村アセスメントによって、県の計画が立てられる。それぞれの県には、オランダ人の専門家が一人居る。このことを通して、県のキャパシティをつけていっている。	
9.4	13:30	26.1	オランダ大使	1	援助	2 7 2	県 県への支援は、県の財政を通ることもあるが、県を素通りすることもある。	
9.7	10:30	39.5	USAID（保健）	1	援助	2 7 2	県レベル 県では、県政府に基礎保健を支援している。その他、県と協議のもと、地元のNGOと5州（コースト、ドドマ、イリンガ、シニヤンガ、タボラ）の中の30県で仕事をしている。県政府は実際の現金こそ見ないが、決定権はある。	
9.7	7:30	35.6	ユニセフ（M）	1	援助	2 8	影響 政府への影響力は、人の選択、分権、及び批判的な現状把握が必要である。もし、政府への影響が難しければ、影響しやすい地域（国）での活動の集中がその国にとって望ましいかもしれない。影響力は、政府及びドナーとの日々の関係に維持されている。決定は、正式な会議のみならず、非公式な話し合いで決まっている。こういった交流なく、日本に対する偏見はぬぐいにくい。	
9.4	9:00	16.8	EU	1	援助	2 10	協調 ここでは、DAC協調が強いので、EU協調が影をひそめている。しかし、これからも努力する。	
9.6	11:00	30.8	Dfid	1	援助	3 1	シフト 我々は、人が少ないのでこういった方向（プロジェクト減少、財政支援増加）に進んでいる。行政的な仕事を減らし、政策に影響する能力を増加している。	*
9.7	15:00	41.4	UNFPA	1	援助	3 1	シフト 前CPでは、7分野で支援を行っていたが、現CPでは、3つのサブ・プログラムで支援している。1. Reproductive health, 2. 人口データ, 3. 広報である。	Q1
9.4	10:30	18.5	タ国教育省	1	援助	3 1	シフト 地方分権、自由化、民主化への転換期は、1991年であった。	

議事録テーマ別分類（日本語）マトリックス

日	時間	P.	訪問機関	章	分類	節	内容
9.6	12:00	31.3	ノルウェー大	1	援助	3 1	シフト 評価から始まり、TASの指針により、プロジェクトを減らし、より少ないセクターを支援し、2000年6月をもって専門家もボランティアもいない。
9.8	9:00	45.2	フィンランド	1	援助	3 1	シフト プロジェクトからプログラム支援へ移行しているが、現在半半である。我々は、セクタープログラムを支援している。我々の目的は、プログラムを合理化することによって、それぞれのプロジェクトがプログラムを形成することである。力を合わせることで、我々は強い。
9.4	9:00	16.4	EU	1	援助	3 1	集中 我々は数が少ないので、少ない分野で集中している。
9.4	9:00	16.5	EU	1	援助	3 1	集中 より少ない分野で集中したことによって、より多くの金額をひとつの分野につき込める。
9.4	9:00	16.6	EU	1	援助	3 1	集中 また、政策対話に踏み込める（特に道路、教育は失敗）。また、対話を通して知識を蓄積できる。
9.4	13:30	25.2	オランダ大使	1	援助	3 1	集中 シフト1：大臣は、4セクターでの集中を決めた。我々は、教育、保健、水（+?）へ集中的に支援している。農・工業への支援はもうない。（農業は、農業省が、投入物のみ要求するので、効果がないと思う。）砂糖工業もやめた。
9.7	8:30	37.3	デンマーク大	1	援助	3 1	集中 1995年以降、援助相手を減らした。65カ国から20カ国へ。タンザニアでは、セクターが4つに減らされた：保健（バスケット）、農業（進みが遅い）、インフラ（地方道路維持）、及び統治（法セクター・法改革）。10から4分野に減らすのは難しかった。デンマークの財政を考慮にいれ、タンザニア政府、私的企業、県レベルなどと話し合いをした。結論はデンマークが出したが、その結論に満足している。
9.1	13:30	11	カナダ	1	援助	3 2	重点分野 スクール・マッピング、HIV/AIDS、ラジオ・ネットワークteacher's resource center について情報交換している。
9.1	14:30	12.1	USAID	1	援助	3 2	重点分野 我々の対タンザニア援助は年間US\$30,000,000で、タンザニアは我々にとって重点国ではない。援助の半分は保健、特にHIV/AIDSに行く。他の分野は環境、private sectorと良い統治、である。
9.6	11:00	30.3	Dfid	1	援助	3 2	重点分野 Dfidの重点分野は、1. 公的資源及び経済管理（財政支援など）、2. 教育（特に貧困層への）、3. 保健（特に貧困層への）、4. 生産的機会（特に貧困層への）、5. 市民社会の参加である。その中でも、2および3が、最優先分野である。
9.6	12:00	31.1	ノルウェー大	1	援助	3 2	重点分野 保健、環境、道路、Eコマース、地方政府改革、及びMDF。
9.1	9:00	6.2	UNDP	1	援助	3 2	焦点 UNDPは、国別評価は行っていないが、効率の悪いプロジェクトは終え、焦点も絞っている。村レベルでのプロジェクトもコストが高いため、減らしている。
9.7	15:00	42.2	UNFPA	1	援助	3 2	重点分野 UNFPAの優先分野は、Executive boardによって、決められており（1. Reproductive health, 2.人口データ, 3. 広報）、地域的活動地域は、保健省によって、決められる。地域は、他のドナーが少ない北及び西の26県である。
9.7	16:00	43.4	WHO	1	援助	3 2	重点分野 WHOの優先分野は、保健省のものと同じである。2000-2001年の活動は、病気の防止及び撲滅、保健システム、Reproductive health, 人間環境、緊急人道的活動、保健促進、障害・怪我・復興、保健研究、保健情報管理（HIM）等である。我々は、優先的地域はない。必要とされているところに支援している。
8.31	16:00	4.1	カナダ	1	援助	3 2	重点分野 優先分野は教育とマイクロファイナンスで、全体の80%を占める。選んだ理由は、参考資料Annex B参照。
9.1	9:00	5.4	UNDP	1	援助	3 2	重点分野 タンザニアの財政的、人的能力は限られている為、政府が優先順位をつけ、優先順位の高い分野から片付けていく必要がある。TAS, PRSP, 及び、貧困モニタリングはここで役に立つ。以下の図で示すサイクルは、理想図であるが、現在部分的にしか実現していない。PRSPはTASの一部であり、モニタリングは重要な観点である。
9.1	11:00	9.5	世界銀行	1	援助	3 2	重点分野 世銀の主な支援は構造調整（セクター、マクロ）である。特に、インフラと私営化に力を入れている。重点分野は、教育、保健、水、農村道路、及び農業（調査）である。
9.4	9:00	16.3	EU	1	援助	3 2	重点分野 インフラ、社会セクター（初等教育、水供給）、道路維持、観光・天然資源。
9.6	13:00	32.9	UNDP	1	援助	3 2	重点分野 UNDPの将来の分野は援助協調である。
9.8	9:00	45.1	フィンランド	1	援助	3 2	重点分野 教育、林業、地方政府改革（LGR）、民主主義の促進（選挙）、貧困削減・MDFである。そのかなでも、教育、LGRは最優先分野である。
9.1	書面	100	UNDP	1	援助	3 2	優先分野 貧困削減、統治・地方政府改革、経済管理・キャパシティビルディング、環境・ジェンダー・HIV/AIDS等マルチセクター
9.7	10:30	40.2	USAID（保健	1	援助	3 3	分権 本部でプログラムを総監督するが、在タンザニアアメリカ大使館が二国間プロジェクトに責任があり、USAIDがそれぞれの活動に責任がある。よって、変化に対応しやすい。
9.4	13:30	25.9	オランダ大使	1	援助	3 3	保健 保健サービスへの財源も充分ではない。

議事録テーマ別分類（日本語）マトリックス

日	時間	P.	訪問機関	章	分類	節	内容
9.6	10:00	28.4	ユニセフ（保	1	援助	3 3	保健 保健セクター改革では、ユニセフは、コミュニティの視点を重要視している。84%の子供が家で死に、そのうち60%は医療サービスを受けたことがない。よって、保健医療サービスの改善のみでは、コミュニティとの断絶があるので、統合的なコミュニティの立場を主張している。
9.6	15:00	33.4	ILO	1	援助	3 3	保健 保健分野では、社会保険スキームを支援している。これは、ダルエスサラームで成功している。
9.7	8:30	37.4	デンマーク大	1	援助	3 3	保健 保健分野に我々は10-15年の経験があり、その能力がある。保健省は新しいシステムを構築しており、その機能は省の能力次第である。我々の保健プロジェクトは主に県レベルである。
9.7	9:45	38.6	統計局	1	援助	3 3	保健 Reproductive Child Health SurveyをUSAIDの支援のもとに11月に終了する。このデータをもとに、貧困・社会データを更新する。USAIDは、DHSにもUS\$1,660,000支援してくれた。
9.7	10:30	39.1	USAID（保健	1	援助	3 3	保健 USAIDのタンザニアの保健分野への配分は、約US\$11,000,000であったが、タンザニアにおけるHIV/AIDSの強調のため、2000年、2001年及び2002年は毎年US\$14,000,000になった。
9.7	10:30	39.6	USAID（保健	1	援助	3 3	保健 中央レベルでは、保健省に年4回、US\$1,800,000支援している。
9.4	10:30	18.2	タ国教育省	1	援助	3 3	スクールマッピング 県の要請に基づいて教育省が協調する。
9.4	10:30	18.3	タ国教育省	1	援助	3 3	スクールマッピング 基本は、地元コミュニティの参加である。
9.4	10:30	18.4	タ国教育省	1	援助	3 3	スクールマッピング スクール・マッピングによって、県がデータをとりまとめ、県の計画を立てる。その過程で、専門家（例えばJICAの）から技術を学ぶ。
9.4	10:30	18.7	タ国教育省	1	援助	3 3	スクールマッピング 使う統計は、伝統的な行政でつくられるものと同じ。データベースの作成し、県が計画づくりに使用することを目的とする。
9.4	10:30	18.8	タ国教育省	1	援助	3 3	スクールマッピング ユニセフが35県、JICAが3県支援している。全113県のうち合計で38県カバー。教育省としては、JICAがもう少し多くカバーして欲しいが、JICAとしては最初の3県の経験のもとに、次の県を行いたいらしい。
9.4	10:30	18.9	タ国教育省	1	援助	3 3	スクールマッピング 現在、県には、コンピューターはないが、将来的には全県にあればよいと思っている。専門家によると、電気のないところで、太陽電池で動かせる。
9.4	10:30	19.3	タ国教育省	1	援助	3 3	スクールマッピング タン・インフォ・データベースには繋がっていないが、NESIS (National Education Statistics Information System)につながっている（ハラレに本部）。
9.4	10:30	19.4	タ国教育省	1	援助	3 3	スクールマッピング 参加者は、先生、コミュニティ、子供、県職員（District Planning Officer, District Executive Director, District Education Officer), Ward Executive Officerなどである。
9.4	10:30	19.5	タ国教育省	1	援助	3 3	スクールマッピング 実行するためには、訓練が必要とされている。
9.4	10:30	19.6	タ国教育省	1	援助	3 3	スクールマッピング JICAは現在3県を支援しており、その後、13県を支援する。24県位支援してもらえると嬉しいのだが。
9.7	8:30	37.7	デンマーク大	1	援助	3 3	選挙 選挙では、政府が60%出しているが、我々は、選挙バスケットを支援する11ドナーの1カ国である。その中で我々が最大ドナーで、UNDP/EUがサービスを提供している。
9.8	10:00	47.4	FAO	1	援助	3 3	農業省 我々は、より効率的でなければならない。農業省のターゲットは農民だが、ものをただでくばっても大事にしない。農業省では、給料が低いという理由もあり、やる気があまりない。
9.4	10:30	19.8	タ国教育省	1	援助	3 3	教育 教育プログラムの目的は、1. 学校教育の普及、2.、3.、4. HIV/AIDSの予防である。
9.6	12:00	31.9	ノルウェー大	1	援助	3 3	道路 タンザニア政府の道路セクタープログラムでは、まだ情報交換の段階である。
9.7	8:30	37.9	デンマーク大	1	援助	3 3	道路 我々は、コースト県の地方道路を世銀のプロジェクトを通して支援している。地方道路では地元コントラクターをつかった労働集約型道路、幹線道にはオランダの建設企業をつかっている。
9.6	15:00	33.2	ILO	1	援助	3 3	労働集約型 労働集約型インフラ開発は、技術訓練（インフラの修理及び維持）を行う。インフラは地元の人々によって作られるため、収入は地元にもどる。企業の利益分がないため、効率が良い。これは道路のみならず排水、灌漑およびダムに行われている。
9.1	14:30	12.2	USAID	1	援助	3 3	成果 保健のプログラムは成功している。環境、良い統治はいまいちである。農村道路のプロジェクトもうまくいっている。

議事録テーマ別分類（日本語）マトリックス

日	時間	P.	訪問機関	章	分類	節	内容		
9.8	9:00	46.5	フィンランド	1	援助	3 4	地域	我々は、タンガ州（ウザンバラ山）で林業、ダルエスサラームでは、国家レベルの支援、モロゴロ州ではNGO支援を行っている。	*
9.4	15:30	23.3	タ国建設省	1	援助	3 4	地域	ダルエスサラームでの協力では、貧困層へのインパクトの疑問があるかもしれないが、都市市場や地元道路に住む貧困層の生活へのインパクトがある。	
9.4	13:30	26.4	オランダ大使	1	援助	3 5	分配	69%がタンザニア政府を支援し、10%が専門家派遣であり、他のはNGOへの支援である。	
9.8	9:00	46.3	フィンランド	1	援助	3 5	北欧	20-30年位前から、北欧諸国は、共同プログラムなどあり、オランダ・イギリスと似た者同志である。ドナー会議では、更にドイツ、スイス、アイルランドも似たような立場をとっており、EUの考えから来ると思う。ただし、ドイツは国の法律上バスケットへの参加は難しいらしい。	
9.4	15:30	23.7	タ国建設省	1	援助	3 5	比較	多国籍支援は、過程が遅いが、逆に二国間支援は対応が早く、プロジェクトも進みやすい。	
9.6	15:00	33.1	ILO	1	援助	3	ILO	ILOの協力は雇用にフォーカスしている。雇用なしには、人々は良い人生を送れない。	
9.4	9:00	16.2	EU	1	援助	3	大きさ	中間的	
9.8	12:00	47.5	農業省	2	評価	1	TOR	TORについて質問・コメント、TOR中の資料請求	
9.8	13:00	48.2	副大統領府	2	評価	1	TOR	評価の紹介	
9.4	15:30	24.4	タ国建設省	2	評価	2 0	Integrated Road Project	1990-2000。DANIDAが年次レビューを行っており、プロジェクトの成果と管理の改善など提言を行っている。	
9.7	8:30	37.1	デンマーク大使	2	評価	2 0	質問票	JICAはいつもこういった質問票を送ってくるが、いちいち返事するのは時間がかかるので、やめてほしい。何か知りたければ、来て聞いてくれ。	
9.7	9:45	38.7	統計局	2	評価	2 0	統計局	我々としては、我々の事業の評価を行っていないが、SIDAのプロジェクト内部評価や、外部評価（SIDA本部・イギリス・ワングウェ教授）などはあった。	
9.1	9:00	7.3	UNDP	2	評価	2 0	方法	短期的にはWorkplanを使うが、年を統合した形で見るとSRFを使う。まだ、それぞれのプロジェクトのAnnual Programme Reportもつかっているが、将来的にはなくすかもしれない。	
9.1	15:30	14.4	タ国大蔵省	2	評価	2 0	方法	国別評価は、それを利用する人によって勤め方が異なると思う。	
9.1	15:30	15.1	タ国大蔵省	2	評価	2 0	方法（視点）	貧しい人々の生活がプロジェクトによって改善されることである。輸入代替などのプロジェクトだと、目的が他にあるようだが。	
9.4	15:30	24.1	タ国建設省	2	評価	2 0	他ドナー	SDCとの（プロジェクト最中の）全体的なプロジェクトレビューに合意した。	
9.4	15:30	24.2	タ国建設省	2	評価	2 0	他ドナー	ADBは独自のアセスメントをプロジェクトの終了時に行っている。	
9.7	15:00	41.5	UNFPA	2	評価	2 1	M&E	それぞれのプロジェクトは、ログ・フレームをつかって（UNFPAでは必修）年4回モニターし、サブ・プログラムについては、年次レビューを行う。1999年に、中間レビューを行った。新しいCPの前に、国別人口アセスメントが政府と行われる。CPの終わりには、国別プログラム評価が行われる（1996年）。	Q1
9.6	13:00	32.91	UNDP	2	評価	2 1	SRF	今まで、プロジェクトごとの評価しか予算がついていなかったが、SRFで選ばれた優先分野で評価予算がつけられるよう本部と交渉している。	
9.7	15:00	41.3	UNFPA	2	評価	2 1	サイクル	現CPは、1998年に始まり、5年間続く。	Q1
9.6	10:00	28.1	ユニセフ（保健）	2	評価	2 1	サイクル	ユニセフは、5年間のサイクルであり、次のCPは2002年に始まる。最後の中間評価は1999年だった。特定のテーマの評価もあり、統計局と行った7県を対象とするSafe Motherhoodの調査等もある。	
9.1	9:00	6.3	UNDP	2	評価	2 1	方法	プロジェクトごとに効率をモニタリングし、評価も行っている（US\$1,000,000以上のプロジェクトは必修）。全体としては、Strategic Results Framework (SRF)を行っている。	
9.7	15:00	41.1	UNFPA	2	評価	2 1	M&E	UNFPAは、CP（国別事業）をとおしてM&Eを行っているが、ここ近年合理化が行われている。	Q1
9.7	10:30	39.7	USAID（保健）	2	評価	2 1	基準	5年に一回、Demographic Health Surveyを支援しており、1996年が最新である。中間的に、Reproductive Health Surveyを1999年に支援し、最初の報告書は出たが、今年11月に最終結果が出る。その最終結果は、評価につかえるはずである。	D
9.8	9:00	46.4	フィンランド	2	評価	2 1	参考資料	Yahane Copeonによる独立調査が行われているが（フィンランド大使館支援）、評価にはまにあわないかもしれない。	
9.1	9:00	6.1	UNDP	2	評価	2 1	評価基準	フィンランドの行った調査は役に立つかもしれない。	

議事録テーマ別分類（日本語）マトリックス

日	時間	P.	訪問機関	章	分類	節	内容	
9.6	15:00	33.3	ILO	2	評価	2 1	労働集約型 評価では是非、JICAでの資本集約的な道路と、労働集約的な道路との比較を行って欲しい。そのために、資料も用意する。	
8.30	10:00	2.2	オランダ外務	2	評価	2 2	インパクト インパクトの評価には十分な注意が必要である。オランダは、20年の評価期間をカバーしているにもかかわらず、インパクトの評価は行わなかった。評価は、持続性と関連する。	
9.4	15:30	24.5	タ国建設省	2	評価	2 2	Integrated Road Project 提言：1. 政府が遅い。よって、制度的組織が改善された。2. 財政が安定していなかった。これは現在改善された。3. お金があったにもかかわらず他の物に使われ、維持が行われなかった。当時用途があいまいであったが、現在は用途が固定化している。	
8.31	9:30	3.2	JICA事務所	2	評価	2 2	援助管理 事務所・地域部・プログラム部の配分など評価して欲しい。	
8.31	9:30	3.4	日本大使館	2	評価	2 2	援助管理 実際の援助にたどりつくまで開発調査、予備調査、基本設計など行う為、金と時間がかかりすぎる。ある事例に関して、プロセスを追ってみると、過程が評価できるのでは。	
9.7	10:30	39.2	USAID (保健)	2	評価	2 2	過程 JICAプログラムのスタッフの配置を見直しても良いかもしれない。例えば、保健省では、JICA保健専門家はうまく位置付けられているが、政策分野で効果を発揮するためには、一人で全ての場所に居、全て自分で行わなければいけない。我々は、保健が最優先分野であるということもあるが、6人の公衆保健の専門家を配置している。	
9.4	13:30	26.3	オランダ大使	2	評価	2 2	結果 評価の結果、援助管理に改善が見られる。現地事務所にも権限が委譲され、例えば、US \$1, 000, 000以下なら、判断を仰がず移動できる。ただし、その結果、本部は我々が何をしているか把握していない。	
8.31	9:30	3.5	日本大使館	2	評価	2 2	比較 他ドナーと比較するにしても、成果だけでなく、その原因となる過程も比較して欲しい。	
8.30	10:00	2.4	オランダ外務	2	評価	2 2	利用 援助管理の改善に利用。発表時期によって、利用価値が異なってくる。	
9.7	16:00	43.1	WHO	2	評価	2 3	M&E 我々は、政府と共同のM&Eを行っている。半年に一回保健省とモニタリングを行い、年に1回保健省とレビューを行い、2年に1回期待された結果をレビューし、予算を決定する。	Q1
9.4	10:30	19.1	タ国教育省	2	評価	2 3	教育 共同評価が行われたが、結果については、我々は、賛同しかねる。「タンザニアは良い統治が行われていない」と結論しているが、評価とは全く関係がない。	*
8.30	10:00	2.5	オランダ外務	2	評価	2 3	参加者 評価で、あらゆる人を巻き込むことによって、評価結果の共存ができ、賛同者も増える。評価過程の透明性が重要となってくる。	
9.6	12:00	31.91	ノルウェー大	2	評価	2 3	参加者 ノルウェーの国別事業評価は、ノルウェーのチーム及びESRFによって行われ、ドラフトは広くコメントされた。	
9.7	15:00	41.2	UNFPA	2	評価	2 3	政府 CPは、政府のプログラムであり、M&Eも共有している。	Q1
9.1	9:00	6.4	UNDP	2	評価	2 3	政府 AMAPを通してプロジェクト評価のガイドラインはつくられたが、使われていない。	
9.4	10:30	19.2	タ国教育省	2	評価	2 3	世銀 世銀による評価も、評価過程では、行動を共にしたが、世銀が本部で書き上げたところ、評価内容に事実が反映されていなかった。	*
9.4	15:30	24.3	タ国建設省	2	評価	2 3	他ドナー Reviewでは、すべてのドナーが関わっている。	
9.7	7:30	35.2	ユニセフ (M	2	評価	2 3	協調 単独の評価はなるべく避けるべきであるが、日本のタンザニアに対する援助の量、及びTASに反対し異なった方法をとっているという意味では、意味のあるものかもしれない。保健・教育・道路に関しては、共通のレビューがある。保健セクターレビュー及び教育セクターレビューに関しては報告書が出ている。農業分野は、大ドナーと世銀が合意してないため、進んでいない。	D
9.1	9:00	7.5	UNDP	2	評価	2 3	協調 評価をするときは、調整のため、他ドナーにスケジュールなどを知らせるべきである。	
9.4	14:00	21.7	タ国保健省	2	評価	2 3	協調 あらゆる調査団が多すぎて、実際の仕事をする時間がない。バスケットの導入によって、3月の2週間のみ、調査団が来る。さもなければ、職員が調査団について出張へ行って、DSAをもらうのは、魅力的過ぎる。こういったバスケットの長所などある。当初は透明性の問題もあったが、日本は満足したときに参加してくれれば良い。	
9.7	10:30	39.8	USAID (保健)	2	評価	2 3	協調 日本とアメリカの間で、共通のアジェンダの共同調査団が予定されているが、日程は毎回変わっている。最終的な予定は2001年1月であるが、JICAの国別事業評価と合理化できると良いかもしれない。日程の決定は、それぞれの本部で行われる。	
9.7	15:00	42.1	UNFPA	2	評価	2 3	協調 共同評価は、異なったプログラムを評価するには、難しいかもしれない。例えば、UNFPAは、UNICEFとかなりの重複があるが、異なった活動の為（例えば地域的に）、共同評価しにくい。しかし、UNDAF（国連の共同活動）を通して、可能になるかもしれない。	

議事録テーマ別分類（日本語）マトリックス

日	時間	P.	訪問機関	章	分類	節	内容		
9.7	16:00	43.2	WHO	2	評価	2 3	協調	国連機関とも協調している。1998年以降、UNDAFを通して協調している。我々は、保健及びHIV/AIDSの分野のテーマ別グループに参加している。9月18日に、PRSPやTASに則して、UNDAFを形成しなおす作業に関して会合がある。	
9.4	9:00	16.1	EU	2	援助	2 3	サイクル	1997-2002	
9.4	14:00	22.1	タ国保健省	2	援助	2 3	サイクル	財政サイクルは、7月から始まり、6月に終わる。7月～3月の期間を見直すAnnual Reviewがあり、その後の6月のQuarterly Reportをもとに、次の財政サイクルに入る。	
9.6	11:00	30.2	Dfid	2	援助	2 3	サイクル	Dfidでは、3年に一回国別戦略をレビューする。	
9.4	13:30	25.1	オランダ大使	2	評価	2 4	結果	1992-1993年に国別事業評価を行ったが、評価は悲惨な効果があった。評価結果は、プロジェクトの3分の2が間違っているというものであり、なぜ、「タンザニアに援助を？」という疑問まで湧きあがった。その結果、我々はザンジバルを支援していない。評価の結果、以下のシフトがある。	
9.7	16:00	44.5	WHO	2	評価	2 4	結果	評価の結果、調査団のフィードバックなど期待している。	
9.7	15:00	41.8	UNFPA	2	評価	2 4	結果利用	ドナー評価は、利用されるべきだが、十分に活用されていないと思われる。DACの集まりを通して、情報交換しても良いかもしれない。	Q2
9.7	16:00	43.3	WHO	2	評価	2 4	結果利用	調査や評価の結果を得るたびに、我々の情報を補充している。USAID, UNFPA, 及び統計局からの情報は利用価値があった。	Q2
9.7	8:30	37.2	デンマーク大使	2	評価	2 4	結果利用	EUの評価は良かった。他の国別評価も読んでいる。プロジェクトからプログラムへ移行するのに、オランダとフィンランドのを使った。	
9.4	10:30	18.1	タ国教育省	2	評価	2 4	時期	1月～3月の間、予算を作成するので、できたら評価の結果を取り入れたかったので、少し時期がずれる。（評価対象が主に援助過程のため、たいした問題ではないはず。）	
9.4	13:30	26.2	オランダ大使	2	評価	2 4	測定	評価結果は厳しかった。金銭的なことは測定できるが、人のアイデアなどは計れない。例えば、フェローシップを1-2ヶ月ほど行っているが、その効果を計るのは難しい。	
9.4	9:00	17.3	EU	2	評価	2 4	予定	1998年に国別事業評価をおこなったが、もう古い。これから内部評価を計画している。	
9.6	12:00	31.2	ノルウェー大使	2	評価	2 4	利用	評価は一連のシフトの出発点であった。	
8.31	9:30	3.1	JICA事務所	2	評価	3 0	方向性	将来に役に立つ国別評価が必要とされている。	
8.31	9:30	3.3	日本大使館	2	評価	3 0	方向性	通信簿的な評価ではなく、将来に生かせ、良いところを伸ばせるような動的な評価をして欲しい。	
9.6	10:00	28.6	ユニセフ（保）	2	評価	3 0	助言	状態及びその帰結を把握することが重要。結果に対し透明性を持ち、将来の事業の改善に役立てると良い。	
8.31	9:30	3.6	日本大使館	2	評価	3 0	プレゼン	評価報告書は分厚すぎる。「教えてやる」的論調は避けるべき。	
8.30	10:00	2.1	オランダ外務	2	評価	3 1	方法	評価方法は目的によって異なる。	
9.6	12:00	31.93	ノルウェー大使	2	評価	3 1	プロ	プロジェクトが政府優先分野を支援しているとしても、狭い視野ではなく、より広い文脈でつかむ必要がある。	
9.5	10:30	27.2	大蔵省	2	評価	3 1	Advisory Committee	Advisory Committeeには、以下の組織を提案する：1. 大蔵省、2. Civil Service Dept., 3. 保健省、4. 農業省、5. 教育省、6. 建設省、7. 林業省、8. 水省、9. 資源省、10. 通信交通省、及び研究機関或いは大学、市民団体。	
8.30	10:00	2.3	オランダ外務	2	評価	3 2	サンプル	サンプルの抽出には色々ある。支出、面白い例、地域別等。これも評価目的によって異なってくる。	
9.1	9:00	7.1	UNDP	2	評価	3 2	期待	農村貧困の改善例とコスト的に効率の良い例が評価で浮き出ると役に立つ。労働集約型地方道路は、良い例である。	
9.6	12:00	31.92	ノルウェー大使	2	評価	3 2	期待	セクタープログラムでJICAと関係しているが、JICAがどのように機能し、どのくらい早く対応できるか興味がある。	
9.6	15:00	33.5	ILO	2	評価	3 2	期待	プログラムの人々へのインパクトを見て欲しい。持続性も重要だ。	
9.4	9:00	17.4	EU	2	評価	3 3	期待	書面に要約された評価は、時間節約になって、重宝する。	